

改訂の序

「イラストでわかる麻酔科必須テクニック－正しいロジックとスマートなアプローチ、合併症の予防・対策」の初版（2006年）から5年を経過いたしました。麻酔科研修医から専門医までの幅広い先生方の賛同を得て、広く利用されていることを大変うれしく感じております。これも編集協力を頂いた諸先生や執筆頂いた先生方のお陰と感謝申し上げております。

今改訂にあたりましては、本書の基本的なコンセプトを継続しつつ、イラストを充実することと、初版の序に記した5点と「優れたテクニックの多くは、正しいロジックをもち、簡単、安全、確実、そして何より患者にとって低侵襲のアプローチから成り立っている」という視点をより一層明確にすることを意図しました。編集協力者に山陰道明教授（札幌医科大学）にお加わり頂き、本書の特徴を一層充実した改訂となつたと実感しております。

本書は、上記の視点から日常麻酔の『スタンダードなテクニックと評価、および合併症予防対策』を、「簡潔さ、明確さ、潔さ」を記述の旨と心がけて分かりやすく概説することを目的としての編集でした。ここで改めまして、本書の特徴をまとめますと、項目毎に

- 1) 簡潔な説明とイラスト・表との見開構成で容易な理解
- 2) 臨床的意義に加えて解剖・病態生理的なエビデンス
- 3) 適応・合併症の予防策の簡潔で分かりやすい記載
- 4) 安全対策・事故防止のためのチェック事項の列記
- 5) 最新の重要な文献を列記し勉強の動機付け

などを重視したことが挙げられます。麻酔・手術中の患者は、手術（外傷）という激しいストレス下にあり、全身状態は時々刻々変化し、対応の遅れは枢要臓器の機能の低下を招き、時に障害をきたす可能性もあります。麻酔（薬）の作用や手術・疼痛に対する「呼吸・循環・体液・代謝への異常・過剰な生体反応」を理解して患者の変化を瞬時に把握し、迅速に対応（治療）することが必須です。したがって「麻酔の仕事」は「攻めの医療」です。「待って見届ける」わけにはいかない、後手に回れば、状況は悪化し打つ手は限られてきます。2週間前に起つた巨大地震による災害への対応と同じで、麻酔管理はもとより外傷や集中治療中の患者にもあてはまります。

「麻酔を安全」に遂行する仕事には、生命の維持に枢要な機能全体の知識とともにさまざまな手技・テクニックが必要となります。テクニックを学びながら、麻酔科医としての態度・習慣（麻酔科的なセンス）と緊急事態に対応できる基本的な力量とが身につき、災害外傷や集中治療中の患者への対応が習得できると確信しております。本書がその一助となりましたなら幸甚であります。

2011年3月 東日本大震災で揺れ動く最中に

市立室蘭総合病院 病院事業管理者、岐阜大学名誉教授
土肥 修司